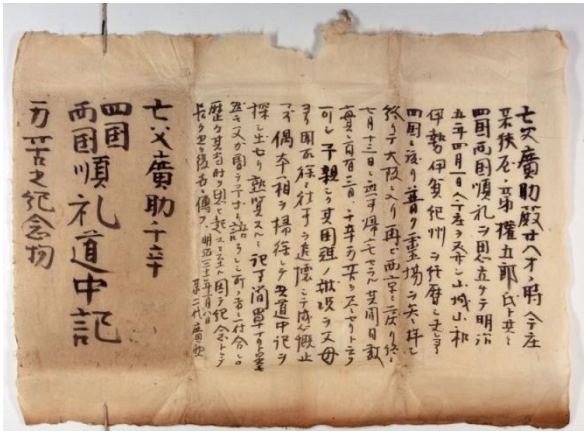


飯田家の旅日記



● 息子が残した父の日記

この旅日記の包紙には、この日記を読んだ著者の息子の思いが書きとめられています。

これによれば、彼は1898年(明治31)ころ、たまたま本箱を掃除していてこの道中記を見つけたそうです。

父や母からよく旅の苦労話を聞かされていた彼は、そうした父母の話と日記の記述とを照らし合わせて当時のようすを思い起こし、父の「千辛万苦之記念物」(包紙の表書き)として後世に伝えることにしたと記しています。

亡父広助殿廿八才ノ時今庄
若狭屋弟権五郎氏ト共々
四国西国順礼ヲ思立テテ明治
五年四月一日今庄ヲ発シ山城大和
伊勢伊賀紀州ヲ経歴シ夫レヨリ
四国ニ渡リ普ク霊場ヲ参拝シ
終リテ大阪ニ入り再ヒ西京ニ戻リ終ニ
七月十三日ニ無事帰宅セラル 其間日数
実ニ百有三日 千辛万苦ヲ尽セリト云フ
可シ 予親シク其困難ノ状況ヲ父母
ヨリ聞故徐々往事ヲ追懐シテ感慨止
マズ、**偶本箱ヲ掃除(除)シテ**此道中記ヲ
探シ出セリ 熟覽スルニ記事簡單ナリト雖モ
然モ父方曾テ予等ニ語ラレシ所ノ者ニ符合シ候
歴々其当時ヲ思ヒ起スニ至ル **因テ記念トシテ**
長ク吾後世ニ伝フ 明治三十一年一月八日
第二代 広助

● 旅の服装と餞別



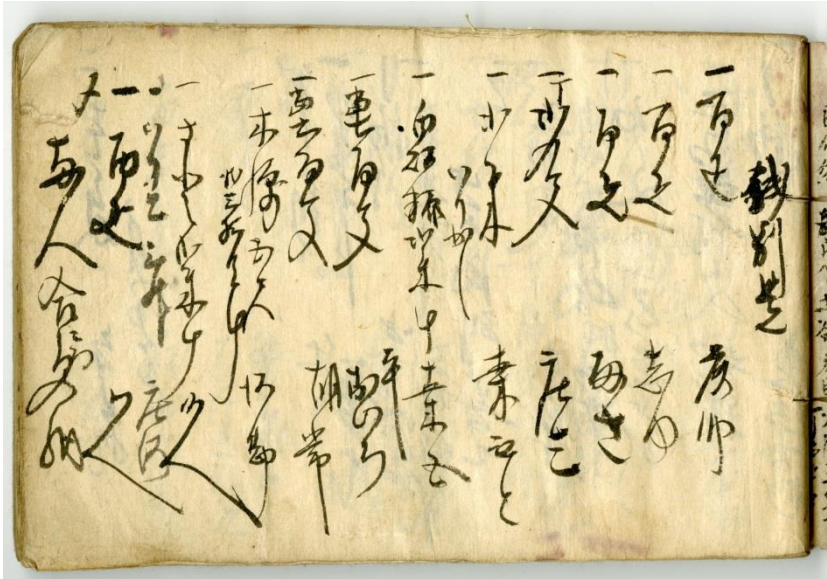
『東海道名所図会』

江戸時代の旅の服装としては、左図のような服装が一般的ですが、この旅日記では、次のような身じたくをこしらえて京都に送り、京都で着替えたとあります。

白い負ツル(笈摺。袖の無い白衣)・白い長ジバン・白い股引・
白いヅダ袋(頭陀袋)・白い笠当(かぶり笠の内側の、頭に当
たる所につける小さい布団のようなもの)

巡礼用の服装と、それ以外の旅の服装とは区別されていたようです。

また、餞別についても誰に何をもらったかを具体的に記録しており、餞別をもらった人には土産を買うことも忘れませんでした。



餞別覚	
一百疋	藤助
一百疋	志ゆ
一百疋	まさ
丁 一式貫文	庄三
一式朱	桑もと
いりかし	
一白砂糖式朱斗	桑五
一当七百文	平 おいち
一当六百文	胡常
一木綿五尺	河勘
代三拾匁斗	
一さと式朱斗	同人
一いりこ三升	庄河
一百疋	同人
百人合ニ而受納	